

「1万円出しても何も起こらない」「あたる気がしない」「つまらない」と、ファン離れが進む今のパチンコ、パチスロに脱出口はあるのか。昨年、「大当たりまでの時間が早く、ゲーム性を楽しめる、1円パチンコのエッセンスを持った4円パチンコ」CRAAを送り出して問題提起した日遊協遊技機開発委員会が、今年はこの問題に真正面から取り組む。そのコンセプトは「サラリーマンが夜の8時、9時からホールに入っても1万円で満足感を期待できる遊技機」。委員会ではこれら要素を盛り込んだ試作機と現行遊技機を引つぎ、2月26日、東京・墨田区のすみだ産業会館で、一般のパチンコ・パチスロファンに加え遊技から遠ざかっている元ファンを特別招待して大試打会を開催、直に顔をつき合わせてその本音を聞くという。名づけて「もっと楽しく!! もっと遊べる!! ぱちんこ&パチスロフェスタ2011 in 東京」。遊技機開発からフェスタ開催まで中心になった茂木欣人・日遊協明日の遊技機創造室副室長にフェスタ開催のねらいなどを聞いた。

ゲスト

日遊協・明日の遊技機創造室副室長

茂木欣

人氏

ファンと業界の乖離をなんとかしたいと熱く語る

元ファン中心に心から 楽しみ、語っていた大好きな

「もっと楽しく!! もっと遊べる!! ぱちんこ&パチスロフェスタ」の一番大きな狙いは何ですか。

茂木 今度の「フェスタ」では、とにかくかつてはパチンコ・パチスロのファンだったが今はやっていないという「元ファン」の方に集まっていたら、今のパチンコ・パチスロを再体験していただくという事です。パチンコもパチ

スロも、元ファンの皆さんが打っていたころのそれとは大きく様変わりしています。まずそれを知っていただきたい。そして、パチンコ・パチスロというところ、かつては射幸性とか出玉とか、そういう視点のみで語られていたものですが、それとは違う視点で作られている今回の機械が、ファンの皆さんの今のライフスタイルの中で、なにか心に響くものがあるのかなのか、聞いてみたい。遊技機というのは、ともするとわれわれメーカー、ホールのひとりよがりです。ファンの方に提供されています。今回はそういう形ではなく、まだ開発段階にある試作機をファンの皆さんに実際に打っていただき、日頃のパチンコ・パチスロに対する想いから、ホールの営業主般に対する想いまで、一切合財をたずねてみたい、というわけです。私たちは、それをし

っかりと受け止め、次の機械開発や営業環境、業界の在り方そのものの改善にまで、役立てればと考えています。

面と向かって
ざっくばらんに
耳の痛い話も

「フェスタ」では、遊技機の現行機や試作機の試打のほか、デイスカッション、アンケート調査などが行われるようですね。

茂木 試打会では、文字通り遊技機をじっさいに打っていただき、その面白さを体感していただきます。メーカーの担当者がそれぞれご説明しますが、できる限り自由にハンドルを握っていただくようにします。パチスロについてもできる限り自由にしていただいて、それ

ぞれの楽しみ方を発見していただくように心がけています。そのあとに皆さんのお話を聞きます。小テーブルを10卓くらい用意して、ファンの方2〜3人ずつと私たちスタッフが対話しようと考えています。ファンの方にはもちろんアンケート調査なども行いますが、面と向かってざっくばらんにわれわれ業界の人間が話をするというところに、私たちとしては一番大きな期待を持っています。いろいろ耳の痛い話も出てくると思います。そういうことまで含めて、洗いざらいファンの本音を聞きたいと思っています。遊技機の話や離れて、業界に対する不満、不審の声もあるかもしれない。個々のメーカーやホールでは聞くことができない、業界全体にかかわるような話も、日遊協が代表になって耳を傾け、それぞれの業界に伝えたいと思

もてぎ・よしひと

1968年（昭和43年）生まれ。東京都出身。91年3月、明治大学卒。同年4月、ピーアーク株式会社（現・ピーアークホールディングス株式会社）入社。現在、株式会社エンターテインメントパチンコ総合研究所取締役・主任研究員。日遊協では09年、未来遊技機部会長、10年から明日の遊技機創造室副室長。セキュリティ対策委員会の日遊協委員。

聞き手＝「日遊協」編集部

ます。また、業界13団体と攻略法詐欺の撲滅を進めるファン雑誌にも協賛していただいておりますので、こうした機会に、ファンの皆さんに直接語りかけられるということもやってみたいと思っています。

エコや低貸玉元ファンには伝わっていない

——業界では従来からさまざまな形で、ファンの気持ちを尋ねる取り組みがなされてきたわけですが、今ひとつファンの本音というか、生の声のようなものが、どこにあるのかつかみきれしていない、そんな感じがありました。業界もここに来て、本当に裸になって、虚心坦懐にファンの本音を聞くということ、極めて重要なことですね。

茂木 これまで業界では、試打会やアンケートなどを通じて、パチンコをやらない方、かつてやってきたもののやめてしまった方など、ノンプレイヤーの声も聞いてきました。そうした取り組みのなかではつきりいえることは、業界が一生懸命取り組んできたエコ運動や、

1円パチンコ、遊パチなどの射幸性低減の取り組みなどが、実は、パチンコをやっていないノンプレイヤーにはまったく伝わっていない、ということでした。一方で、ファンも元ファンも、業界に対して言いたいことがいっぱいある。なのに業界のほうには十分伝わっていないとの思いがある。昨年、日電協と回胴遊商が行った「なんとかしようよ!!パチスロ文化」の対話集会に大勢のファンが詰めかけましたが、ディスカッションの場で発言したくうずうずしているファンの方々の姿が忘れられません。

アンケートなどに現れる数字ではなく、生の声が業界にはまったく届いていない。この双方の行き違いを何とか解きほぐす手はないのか、その解決の糸口をつかみたい、というのが、このフェスタをやるうと思つた一番大きな動機なんです。

ブロガーやファン雑誌で呼びかけて

——「フェスタ」には、どのくらい

いますか。

茂木 会場の都合もあり約300人です。

——参加者は、どのようにして集めるんですか。

茂木 今回は、何らかの理由でパチンコ、パチスロをやめている休止者に、何らかの行動を起こしてもらうことを目指しています。早く言えば、パチンコ、パチスロにたまっている不満を洗いざらいぶつつけてもらいたいです。そのため、パチンコ、パチスロ休止者を中心に集まってもらうように、いろいろ工夫しました。たとえば、インターネットでパチンコに関するブログ（日記）を公開しているファンに呼びかけ、それぞれの周辺でかつてパチンコ、パチスロをやっていたけど、今はやめている休止者、元パチンコ・パチスロファンに呼びかけ、集めてもらいます。パチンコ・パチスロファンのブログを読んで2次読者とか、その先につながっている元ファンというのをもたくさんいらっしやいます。こうした元ファンを今回は約100人と想定しています。むしろん、一般のファンの方にも呼びかけています。これはパチンコ攻

略法詐欺撲滅ファン雑誌連絡会に属する雑誌で呼びかけています。ファン、元ファン入り乱れて、300人位は楽に集まると思いますね。

——業界の方は、今回はお断りということですか。

茂木 いや、お断りということではありません（笑）。来ていただければ、もちろん入場は構いません。ただ、いつもの試打会にホールの方が見に来るというのとは違う目的で開かれているということをご理解いただいたうえで、ご来場いただきたいと思いますね。一人のファンになったつもりで機械の前に座り、ファンの立場になって率直なご意見を聞かせていただきたいと思います。

会社帰りに気楽に寄れてすぐやめられる

——出展されるのはどういった機械なんですか。

茂木 パチンコでは、現行機なら「遊パチ」タイプが中心です。試作機の場合は、細かいスペックはあく

インタビュー「明日を拓く」

までも試作の段階なので、はつきりしたことは申せませんが、仕事帰りのサラリーマンが、1時間、一定の投資で、ある程度のリターン、つまり賞品を得られるということをおコンセプトにした機械、すなわち「打ちやすく、すぐやめられる機械」に「夜、会社帰りのサラリーマンが、気軽にパチンコ屋さんに寄

りたくなるような機械」を目指しています。現行の機械の場合、射幸性が高い低いはともかく、確率変動その他がいったい何回続くかわからない。そのために、よほど時間的に余裕のある人でないと、遊ぶことは不可能です。それがいいという人もいるでしょうが、それでは普通のサラリーマンが会社



「フェスタ」の仮ポスターを示しながら、試打会の説明をする茂木副室長

帰りにパチンコ店に立ち寄ることはできません。ならば、1時間で3000発なら3000発、大当たり何回で打ち止め、というような、あらかじめゴールが見込める機械なら、夜の8時、9時からでも、勝負を楽しむことができる。ちょっとした待ち合わせ時間にも楽しむことができるのではないのでしょうか。今回、展示される試作機は、このような提案を含んだ内容を指しています。

パチスロの場合は、どちらかというと若い人が中心になっていますが、もっと幅広い年代の国民各層が楽しめるような機械、また幅広い年代の方がついていけなくなるような要素を除いた機械、音の問題も含め環境の問題にも対応するような機械をそろえることにしています。たとえば、今回出品のパチスロには、イヤホンをつけています。実際にこれをつけるのは規則改正が必要ですが、ホールの騒音問題に対する一つの試みとして皆さんの意見をうかがってみていきたいと思います。いずれにしても現行機、試作機あわせてそれぞれ40台づつというのが目安です。出展希望のメーカーさんが思いもほか

多くて、うれしい悲鳴を上げていくところですが、会場等のことを考えると、このくらいが限度ですね。

パチンコ5部門
パチスロ2部門
アワード表彰式

——フェスタの最後は業界関係者を対象に「遊技機アワード表彰式」も行われるんですね。

茂木 年末に各メディアが行っている遊技機の人気投票をベースにして、ホール5団体、ファン雑誌の代表が優秀機種の選考を行います。パチンコなら「CRAA甘デジ部門」「遊パチCRA部門」「ミドル部門」「ハイ部門」「羽根物部門」で上位3機種、パチスロなら「Aタイプ部門」「Aタイプ以外の部門」の上位3機種が表彰の対象となります。ハリウッド映画のアカデミー賞ではありませんが、長く続けていくことで、ファンと業界の相互理解の一助になればと期待しています。

——昨年5月、CRAA機の試打会が開かれました。今回のフェスタとの違いはどの辺にありますか。



昨年5月に行われたCRAA機の試打会。今回は、その発展型だ

茂木 昨年のCRAA試打会は、試作機も2メーカー4台という小規模なものでしたが、われわれの問題提起はある程度業界にご理解いただけたと思います。その後、CRAA機は実際にホールに導入されましたが、まだ数があまりに少なく、ファンには十分ご理解いただけるまでにはなっていません。ただ、今年はやや、雰囲気が変わってきているようにも思います。若干ですが、消費も少し上向いているといわれています。節約疲れで、

いま少し明るい時代への希望も芽生えているのではないのでしょうか。こうした時代の雰囲気をうけて、今回はもう少し骨太の、手応えある機械を目指しました。昨年のCRAAについては、確率50分の1で何分以内に初当たり…などという射幸性低減のための細かい規定がありました。しかし、今回の試作機には、そうしたものはありません。また、CRAAの場合1500円から1600円くらいの投資で何らかのリターンをというものでしたが、今回の試作機は仕事帰りのサラリーマンが投資額1万円くらいで何らかのリターンがあるかどうか、というものですから、CRAAのスペックのさらに下を行くということではありません。現行のミドル、MAXよりは遊びやすいものの、いっぱしの大人であるサラリーマンの皆さんにも満足いただける要素を備えた遊技機といえると思っています。

お金をかけず
手弁当で開催
地方でもぜひ

——今回のフェスタは、従来のそれとはちょっと毛色の変わったイベントになりそうですよね。

茂木 おっしゃるとおりです。業界が開くファンイベントというとこれまでは莫大なお金をかけて広告宣伝を打ち、コンパニオンを並べて、話題作りに努めました。が、今回はなるべくお金をかけません。広告代理店さんも頼まず、コンパニオンも呼びません。会場はほとんど手弁当で参加したボランティアで運営していきます。ですから企業の協賛金もいただきません。それでいて楽しく真剣にファンの声を聞く。このフェスタを機に、業界の開くフェアのあり方にも一石を投じたいと思っています。

——地方でも同様なフェスタが開かれるといいですね。

茂木 ぜひやりたいですね。ファンというのは、東京のような大都市と地方ではずいぶんとその特性が違います。地方地方それぞれの特色というのがあります。そうしたファンの声を細かく拾って、機械開発や営業に生かせるなら、業界はもっともっと国民に身近なものになれると思います。ただ、いまの体制では、これを全部引っ担

いで全国キャラバンというのはむずかしい。これを機会に、みずからやってみようという熱意のある組合さんとか、団体が手を上げてくれることを期待しています。

——昨年、市場に出たCRAA機は、いまどうなっていますか。

茂木 CRAAを買ったホールはそれほど多くはありませんでした。そもそもCRAAの原型は10年ほど前にあるメーカーが作り、そこからじわじわと続いてきたものです。CRAAは遊パチのなかに埋もれている格好ですが、今後も作り続けることが重要だと思います。CRAAを導入したホールに聞いてみると、この機械には来店されるところならずこの機械の前に座るといふような固定ファンが付くそうです。1500円から1600円くらいの投資で、10分から15分で当たりが来るといいます。お客様としては結構楽しんでいっているのではないかなと思います。市場はまだ狭く、ともすれば遊パチのなかに埋もれてしまいがちですが、やがて機種が増えてCRAAコーナーのようなものができれば、認知も徐々に上がってくるのではないかと思います。

中から見るのと
世の中とは
大きなギャップ

——ここで少し茂木さんのお話を聞かせてください。この業界に入ったきっかけはなんだったんですか。

茂木 今の会社、ピーアークに入ったのは、大学卒業後の平成3年です。バブルは崩壊していましたが、世の中まだ余裕たっぷり。いまの若い学生にいうと叱られてしまいそうですが、学生時代はマージャン、パチンコと、実に楽しい青春でした。中でもパチンコが一番面白かった。平和の「ビックシューター」、ニューギンの「ニューヤンキー」なんかに夢中でしたね。こんなに面白いのだから商売したらもつと面白いに違いないと思っていました。就活の時期になっていろいろ考えた結果、モノを作る、売るとは別のサービス業というのに興味を持っていましたから、自然とこの業界に目が向きました。もつとも、親には「大学出てなんでパチンコなんだ」とさんざ怒られましたけどね。——会社に入ってどうでした？

茂木 会社に入ってみると、面白いことばかりでしたね。当時は会社も5〜6店舗ほどの小さな所帯でしたから、営業はむろん企画、広報、何でもやらせてもらえました。毎日、やる事が違っていて、はらはらどきどき。いろんな人に会えて、いろんな話を聞くことができました。学生時代とは違った面白さでしたね。ただ、そこで感じたのは、このパチンコ業界というのは、内部から見ると世の中から見るとでは、なぜかくも大きなギャップがあるのかということでした。これは何とかしなくてはいけないなと思い始めたころ、日遊協に出向となりました。ここでは、そうした世の中の認識をなんとか変えようと、行政も業界もいろいろな努力を行っている。私も及ばずながら、いろいろやりましたが、ま、これは一朝一夕にできるものではなし、ただ、その熱い思いは今も変わらないつもりです。——今では全国に広まった1円パチンコも茂木さんの会社からだし



かなりの釣キチ。千葉・鏡子沖で釣り上げたヒラメは80センチ、5キロの大物だ(昨年11月)

たね。
茂木 一昨年から昨年にかけて、ある調査でサラリーマンの小遣いの平均が、4万6000円くらいから4万円に下がり、飲み会の会費が一気に1000円くらい下がったことがあります。こんなときに、パチンコ業界が、やれ出玉だの、演出の面白さだの、自分たちの都合でやっていても始まらないのではないか。パチンコ業界は、時代の変化を見逃している、そんな思いからはじめました。今回の試作機はこれとはまた別の視点か

ら作られますが、やはりこれも時代のニーズに合ったものを提供しようというものです。——ところで、ご趣味は、やはりパチンコですか？
茂木 パチンコは、今は仕事ですから。休日はもつぱら海釣りですね。ゴルフはみんなにやれといわれていますが、仕事の延長のような気がしてね。やはりリフレッシュできるのは釣りですね。——本日は興味深いお話をたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。